

日 時 令和3年7月9日(金)  
 13:30~14:05(6校時)  
 場 所 自立活動室②  
 対象生徒 高等部1年生ⅢC課程(男子1名)  
 指 導 者

1 対象の児童生徒について

(1) 高等部1年 A

(2) 障害の状態 コルネリア・デランゲ症候群

本生徒は、Ⅲ課程C類型で学習する高等部1年生の男子で、本校中学部から本校高等部へ入学した。医療的ケアを必要としており、胃ろうでの栄養摂取を行っている。また、手指欠損と肘の可動域制限のために上肢操作に困難さがあるが、腕で物に触れたり、指で顔をなでたりするなどの動作はできる。情緒は安定していることが多く、表情は豊かであるが、暑さや腹痛といった身体的なストレスによって全身を激しく動かしたり、頭を前後左右に振ったりすることがある。他者との関わりについては、教師の声掛けに視線を合わせたり、腕で振り払ったりして応答することができる。また、近くの教師の挙動や目の前で動くものを180度追視することができ、教師が指さしたものに視線を動かすこともできる。

(3) 各種検査結果とその解釈【遠城寺式乳幼児分析的発達検査(令和3年4月実施)】

移動運動 0:8.5      手の運動 0:1.5      基本的生活習慣 0:2.5  
 対人関係 0:4.5      発語 0:1.5      言語理解 0:10.5

FDQ3

<解釈>移動運動と言語理解の発達が他と比較して高い。指の欠損のため、手の運動の発達に難しさがあるが、全身を使った動きや言葉を介したやりとりなどの本生徒の長所を生かした学習をすることで、基本的習慣や対人関係を高めることができるのではないかと考える。

(4) 学習到達度について

○学習到達度チェックリストのスコアとその根拠

※7割以上(○)、3割以上~7割未満(△)、3割未満(×)

	観点	スコア	スコアの根拠となる行動 (スコアを判断した行動を段階・意義に照らして記述する)
国語	聞くこと (受け止め・対応)	8	○名前を呼ばれると振り返ってこちらを見る(○) ⇒「(苗字)さん」や「(名前)さん」といったどちらの呼び掛けにも応答が見られる。 ○「ちょうだい」の身振りで、物を差し出そうとする(△) ⇒手に固定した物を教師の手に向けて動かそうとするときがある。 ○「こっちだよ」と声をかけるとこちらを見る(○) ⇒2m程度離れた距離から声をかけるとその方向へ視線を動かす。
	話すこと (表現・要求)	8	○視線や声、からだを動かしたりして、相手の注意をひく(○) ⇒頭部や肘を前後左右に振ったり、身近な教師をじっと見つめて何か訴えようとしたりする。 ○顔をそむけたり、払いのけたりしていやがる(○) ⇒肘を動かして人や物を押しのけようとする。 ○手を伸ばして、「アー」と声を出して物を欲しが(■)
		12	○欲しい物があると「ちょうだい」と声を出す(■) ○「ママ」または「ママン」などと言う(■) ○欲しいものを指さして要求する(△) ⇒指さしては難しいが、視線を向けることがある。

読むこと (見ること)	1 2	○大人と一緒に絵本のページをめくって見る (○) ⇒教師から促されると肘で本に触れて操作する。 ○大人が指さした方向を見る (△) ⇒「あっち見て」などの声かけと一緒にある方向を指し示すと、その方向を見ることがある。 ○大人の視線を追って同じものを見る (△) ⇒視線が合った状態で教師が視線を動かすとその方向に視線が動くことがある。
書くこと (操作)	6	○目の前のおもちゃに手を伸ばしつかむ (※) ○握らせるとガラガラ等を振る (○) ⇒補助具など使ってガラガラを持たせると、振って鳴らすことができる。 ○顔にかけられたタオルなどを取る (○) ⇒右肘を動かしてタオルを取るができる。

本生徒は「聞くこと (受け止め・対応)」がスコア 8、「話すこと (表現・要求)」がスコア 8、「読むこと (見ること)」がスコア 1 2、「書くこと (操作)」はスコア 6であった。「聞くこと (受け止め・対応)」「話すこと (表現・要求)」「読むこと (見ること)」に関しては、次スコア・段階意義への芽生えはなかった。「書くこと (操作)」に関しては、手指の欠損のため次スコア・段階意義の内容について評価困難とした。

スコア 8 の段階意義を見てみると、「音声や身振りによる働きかけ」によって大人の注意を引く、呼名に応じるなど「言葉への応答」をみせたり、物を受け取る、差し出すなど「物を介したやりとりの芽生え」が見られたりするようになり、大人とのやりとりが多様になってくる段階となっている。また、物をつかんでぶつけるなどの「探索的操作」を繰り返し行い、こうした活動を通じて活動の推移や変化に注目する「活動と結果のつながりへの気づき」が生じたり、腹這いから姿勢を変える・座るなどの「姿勢の保持・変換」の力が高まったりする段階となっている。このうち、国語科に関わる段階意義は「音声や身振りによる働きかけ」「言葉への応答」「物を介したやりとりの芽生え」「探索的操作」「活動と結果のつながりへの気づき」となっている。

スコア 1 2 の段階意義を見てみると、自己と対象と他者によって構成される三項関係 (共同注意) のやりとりが活発となり、「相互的なやりとりの拡大」がみられ、こうしたやりとりを通じて、物と言葉の関連に気付き始め、「ボールちょうだい」など簡単な指示に応じる「言語指示への応答」や「マンマ」「ママ」など簡単な言葉を「発語」するなど、言葉の発達が芽生え始める段階となっている。また、つまむ、拭くといった微細な動きが可能になり、「手指の巧緻性」が高まったり、ハイハイなどで「移動」することが見られたりする段階となっている。このうち、国語科に関わる段階意義は、「相互的なやりとりの拡大」「言語指示への応答」「発語」「手指の巧緻性」となっている。

上記の段階意義に照らし合わせると、「読むこと (見ること)」に関しては、「相互的なやりとりの拡大」の段階意義を身に付きつつあると判断できる。しかし、「相互的なやりとりの拡大」の段階意義に属する「話すこと (表現・要求)」の行動項目については達成できていない。「聞くこと (受け止め・対応)」に関しても、「相互的なやりとりの拡大」の前段階として獲得する「物を介したやりとりの芽生え」に属する行動項目は十分に達成できていない。「相互的なやりとりの拡大」は、大人が注意を向けている対象に自らの注意を焦点づける「応答的な共同注意行動」から自分が注意を向けている対象に大人の注意を向けさせようとする「始発的な共同注意行動」へと拡大するといわれている。そのため、大人と同じものに注意を向ける「応答的な共同注意行動」における注意を焦点づける力は身に付きつつあると考えられるが、「始発的な共同注意行動」へと広がっていないことが考えられる。「書くこと (操作)」については、対応する段階意義であるスコア 6 「物の単純な操作」は達成できていると判断できる。しかし、「物の単純な操作」の次の段階であるスコア 8 「探索的操作」の行動項目はすべて「評価困難」であった。「探索的操作」には、書くための手の操作に関わる国語的な要素と物を観察の対象として注意深く見る算数的な要素があると考えられる。手指の欠損のために、書くための手の操作は難しく、今後も機能的に獲得が難しいと考えられる。

以上のことより、「書くこと (操作)」以外の観点については、おおむねスコア 8 の段階意義を達成していると考えられる。スコア 1 2 の段階意義については、「相互的なやりとりの拡大」に向けて力が高まっているため、国語科としての全般的な発達段階はスコア 8 とし定着を図り、スコア 1 2 へ向けた力を高めることが適切ではないかと考える。「書くこと (操作)」については補助具等を活用して、スコア 6 の確かな定着とスコア 8 に向けた学習を行うことが適切ではないかと考える。

○学習指導要領（H30）の段階の内容との照合

※8割以上（○）、4割以上～8割未満（△）、4割未満（×）

小学部1段階

（知・技）

ア 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア-（ア）身近な人の話し掛けに慣れ（○）、言葉が事物の内容を表していることを感じる（△）。

ア-（イ）言葉のもつ音やリズムに触れたり（×）、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること（△）。

イ 我が国の言語文化に関する事項

イ-（ア）昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと（○）。

イ-（イ）遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること（×）。

イ-（ウ）-㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること（×）。

イ-（ウ）-㊧ 筆記具の持ち方や（×）、正しい姿勢で書くことを知ること（×）。

イ-（エ）読み聞かせに注目し（○）、いろいろな絵本などに興味をもつこと（○）。

（思・判・表）

A 聞くこと・話すこと

ア 教師の話や読み聞かせに応じ音声を模倣したり（×）、表情や身振り（○）、簡単な話し言葉など（×）で表現したりすること。

イ 身近な人からの話し掛けに注目したり（○）、応じて答えたりすること（△）。

※発語はないが、表情で応じることがあるため、△と判断した。

ウ 伝えたいことを思い浮かべ（△）、身振りや音声などで表すこと（○）。

B 書くこと

ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり（×）、選んだりすること（×）。

イ 文字に興味をもち（×）、書こうとすること（×）。

C 読むこと

ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き（○）、注目すること（○）。

イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること（△）。

ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること（×）。

エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり（△）、登場人物の動きなどを模倣したりすること（×）。

（5）高等部卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

本生徒と保護者の願いやニーズ、希望する進路先（生活介護事業所）などを踏まえて、高等部卒業までにめざす姿を「手や肘の動き、視線などで自分の意思を伝えることができる」「好きなものや人に向かって移動し、関わりを楽しむことができる」とした。高等部卒業までに身に付けてほしい力として、「日常生活の中で自分の気持ちや要求を何らかの手段で伝えることができる」「興味のある対象に向けて、自ら手を伸ばしたり働きかけたりすることができる」、「いくつかのお気に入りの物を介して、いろいろな遊び方に気付くことができる」を挙げている。国語科では、他者の声や言葉を聞いて応答し、人とのやりとりを楽しむための聞く力、物や人、その両方といった身近な対象へ自ら得意な手段で働きかけたり、意思を表出したりするための話す力、興味のある物に気付き、より強く焦点づけて対象を見るための読む力、伝えたいことを思い浮かべたり、身近なものを補助具の力を借りながら自分なりに操作したりするための書く力を身につけていくことで、身に付けさせたい力を養い、生活介護事業所での生活が豊かになると考える。

## 2 対象生徒の週時程

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	総合的な探究の時間	生活単元学習	自立活動	自立活動	生活単元学習
3	自立活動	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	自立活動
4	美術	音楽	体育	音楽	体育
5	自立活動（食事の指導）				
6	日常生活の指導・国語・数学				
7		自立活動	自立活動	LHR	

### 3 指導方針

#### (1) 学びの履歴

本生徒の国語科の指導記録と学習指導要領の段階とを照らし合わせると、概ね小学部1段階にあった。

小学部4年生までは、国語を含む各教科等を合わせた指導を実施していた。小学部5年生では、視線を動かしながら絵本に描かれた動物を見たり、教師が号令を促すとうなずきや発声で応じたりすることが増えた。小学部6年生では、遊び歌を聞いて、したい気持ちを発声で伝えたり、教師の「いちごちょうだい」の言葉での働きかけに肘で応じたりすることができた。小学部卒業時点でのスコアは「聞くこと（受け止め・対応）」が4、「話すこと（表現・要求）」が4、「読むこと（見ること）」が6、「書くこと（操作）」が2であった。

中学部1年生では、教師の言葉での促しで、教師の手に自らタッチしたり、肘を使っておもちゃを操作し、机から皿に落としたりすることができた。中学部2年生では、鏡に向かって声を出すことが5割程度できたり、絵で示された怒った顔や笑った顔を見つめ、選ぶことが8割程度できたりした。また、教師と一緒に文字を書き、その様子をじっと見たり、筆を手や足で持って書道に集中して取り組んだりすることができた。中学部3年生では、学習中は、話しかける教師の方を向いて聞き、教師の「ふうふうふう」の言葉で目を開いて期待したり、肘を動かして表現したりすることができた。また、紙芝居に描かれたバスやペーパーサートに注目して話を聞き、教師が指さしたバスに視線を移したり、追視したりすることができた。中学部卒業時点での学習到達度チェックリストのスコアは、「聞くこと（受け止め・対応）」が8、「話すこと（表現・要求）」が8、「読むこと（見ること）」が12、「書くこと（操作）」が4であった。

高等部入学当初の学習到達度チェックリストは、先述したとおりである。1学期の学習では、「固い」「柔らかい」などの物の状態を表す言葉に気付き、教材に肘を伸ばして触ったり、自ら口元に教材を引き寄せて感触を味わったりすることができた。また、教師から言葉で指示された感触の教材を視線や肘の動きで選ぶことが増えた。読み聞かせでは、電子黒板に提示されたイラストが動く様子を追視したり、腕に固定した棒を動かして画面に触れたりすることができた。

#### (2) 学習到達度チェックリストの目標となるスコアと本生徒の実態

※8割以上（○）、4割以上～8割未満（△）、4割未満（×）

観点	スコア	スコアの代表的な行動
聞くこと (受け止め・対応)	8	○名前を呼ばれると振り返ってこちらを見る（○）→（○） ○「ちょうだい」の身振りで、物を差し出そうとする（△）→（○） ○「こっちだよ」と声をかけるとこちらを見る（○）→（○）
話すこと (表現・要求)	8	○視線や声、からだを動かしたりして、相手の注意をひく（○）→（○） ○顔をそむけたり、払いのけたりしていやがる（○）→（○） ○手を伸ばして、「アー」と声を出して物を欲しが（■）→（■）
	12	○欲しいものを指さして要求する（△）→（△）
読むこと (見ること)	12	○大人と一緒に絵本のページをめくって見る（○）→（○） ○大人が指さした方向を見る（△）→（○） ○大人の視線を追って同じものを見る（△）→（○）
書くこと (操作)	6	○目の前のおもちゃに手を伸ばしつかむ（■）→（■） ○握らせるとガラガラ等を振る（○）→（○） ○顔にかけられたタオルなどを取る（○）→（○）

(3) 本校研究で作成した国語の学習内容表より選定した学習内容

観点	スコア	学習内容
聞くこと (受け止め・対応)	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちょうだい」の身振りや言葉かけで物を差し出そうとしたり、渡したりする。</li> <li>・「バイバイ」に手を振ったり、「ダメ」に首を振ったりする。</li> <li>・「こっちだよ」という声をかけられた方を見る。</li> </ul>
話すこと (表現・要求)	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの物から興味のある方を選ぶ(視線・手を伸ばす)。</li> <li>・大人の働きかけに、「いや」という自分の気持ちを手や足で押しのける等の方法で表す。</li> <li>・要求があるとき、視線や声、身体の動きなどで、相手の注意を引く。</li> </ul>
	1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人のまねをして、手を合わせるなどの簡単な身振りで要求を伝える。</li> <li>・欲しいものと、大人の顔を交互に見て要求する。</li> </ul>
読むこと (見ること)	1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を読んでもらうと、じっと見ながら聞く。</li> <li>・大人が指さしたのや見た方向を見る。</li> <li>・身近な人を目で追う。</li> </ul>
書くこと (操作)	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチに働き掛けて、その物とは違うものから何らかの刺激が起こることが分かる。</li> <li>・紙をぐしゃぐしゃにする。</li> <li>・手を出して物をつかむ。</li> </ul>

本生徒の実態から導き出したスコアから、目標となるスコアを設定し、上記の学習内容を設定した。これらの学習内容、学びの履歴、高等部卒業までに身に付けたい力などを考慮し、国語科の指導方針を以下のようにする。

国語科の指導をするに当たって、全体的なスコア8の確実な定着を図り、知的障害特別支援学校小学部国語科1段階における目標の達成と内容の習得を目指すこととする。「聞くこと(受け止め・対応)」「話すこと(表現・要求)」「読むこと(見ること)」に関しては、それぞれのスコアに対応する学習内容のさらなる定着を図る。特に、「話すこと(表現・要求)」は「読むこと(見ること)」の力を生かして、人や物に自ら働きかける力を高めていく。「書くこと(操作)」については、補助具等を活用してスコア6に対応する学習内容を取り入れつつ定着させ、確実な力とする。

実際の学習において、「聞くこと(受け止め・対応)」に関しては、これまでの学びで擬音語とそれがあらわす事象とを結びつけたり、ごく簡単な指示に応じたりする力が高まっているため、名詞や動詞など品詞に注目した具体的な言葉と事象とを結びつけながら、理解できる語彙を増やしていく。また、指示語や促しの言葉など日常生活で頻出する言葉についても単元ごとに取り扱う言葉を精選して応答する力を高めていく。具体的な言葉を学習する際には、卒業後の進路先で掛けられることが多いと考えられる言葉を選定しながら学習を進める。「話すこと(表現・要求)」に関しては、「始発的な共同注意行動」へと広げていくために、本生徒にとって好きなことや教材を使用して、自ら物に対して働きかける意欲を引き出しながら教師を介して物と関わる活動を設定する。活動内容や教材の配置などを工夫して、大人の注意を引く本生徒の視線や肘、足の動き、発声などの行動を引き出し、その行動が見られた際には称賛して行動を強化していく。「読むこと(見ること)」に関しては、「話すこと(表現・要求)」との関連を踏まえて、絵本やペープサート、紙芝居、アニメーションなどの読み聞かせや物語に沿った身体活動のなかで、さまざまな視覚情報の中から教師が指さした好きなものや教材を見て働きかけたり、自ら興味がある物をとらえて教師と一緒に物で遊んだりしながら、三項関係の確かな形成を目指す。「書くこと(操作)」に関しては、直接教材に肘や指先などで触れて動かす活動を中心として、ICT機器や物を保持できる補助具等を活用して、可能な上肢の動きを生かしつつ、物への新たな働きかけ方を知り、因果関係を学習しながら物を操作しようとする力や意欲を高めていく。

これらの観点を関連させながら学習することで、知的障害特別支援学校小学部国語科1段階の目標で示されている力を身に付けることができると考える。

## 5 単元（題材）について

### （1）単元名

「身近な人と話をしよう～お話の宝箱～」

### （2）単元設定の理由

本学習グループは生徒の実態や特性を考慮して構成した6名で、本生徒はそのうちの1名である。本生徒の実態や学習到達度チェックリストのスコア等は前述のとおりである。そこで、本単元では、「聞くこと（受け止め・対応）」「話すこと（表現・要求）」の2点を指導することとする。「聞くこと（受け止め・対応）」に関しては、スコア8の段階意義である「言葉への応答」「物を介したやりとりの芽生え」の定着のために、教師からの言葉による働きかけや促しを受けて一緒に物と関わる学習活動を設定する。指導方針に則り、本単元において、本生徒に気付き、分かってほしい言葉として「本」「野菜」「もう一回」の3つを主に取り扱う言葉とする。その理由として、「本」に関しては、本生徒の好きなものの一つであり、本生徒からの興味や関心を引き出しやすいものである。また、今後の生活介護事業所での余暇活動の一つとして活かしていけると考える。これまでの学習のなかで教材の一つとして「本」を介して言葉を学んできており、「本」という言葉には触れていることが考えられ、具体的な言葉を学ぶ入り口として「本」という言葉を確実に学ぶ意義があると考えられる。「野菜」に関しては、食事は日常生活において切っても切れない重要なものであり、食べ物の中でも「野菜」は「シャキシャキ」「ポリポリ」などオノマトペを使うことで感覚的にとらえやすい言葉であると考えられる。本生徒は胃ろうでの栄養摂取のため、口内で音や感触、味などを味わったりすることが難しいが、においや重さ、耳から聞こえる特有の音など様々な感覚を楽しむことができる。現在、生活単元学習「生き物を育てよう」にて、植物の栽培を学習しており、これまで国語科や生活単元学習で触れてきている具体的な野菜の名前と関連させて「野菜」という大きな括りとしての言葉の意味を感じ取らせたい。「もう一回」に関しては、抑揚のつけ方やアクセントなどで教師からの促しの言葉にも、本生徒からの要求の言葉にもなる。最初は、「もう一回？」という教師からの促しの言葉として掛け、応答することで好きなことができるということを学習し、徐々に要求を明確に伝えることができる言葉であることを学習することで、相手に伝えようとする意欲が高まり、「話すこと（表現・要求）」の力を高めることにつながると考える。学校生活や生活介護事業所において、「もう一回」と相手に伝えることで欲求が叶うだけでなく、周囲の人に自分の好きなものを知ってもらうことにもつながるため、学ぶ意義があると考えられる。こうした物を介して言葉を学習することで、言葉の意味に気づく力を高め、「物を介したやりとりの芽生え」「言葉への応答」の定着を目指したい。

「話すこと（表現・要求）」に関して、スコア8の段階意義である「音声や身振りによる働きかけ」の定着のために、好きなものを提示したり、好きな活動を教師と一緒にいたりする中で、発声や手足の動き、視線の動きなどによる表出・要求を引き出すことがよいのではないかと考える。その際に、教師にしっかり注意を向けて意図的な表出・要求を行っているかを観察してフィードバックしたり、称賛したりしながら確実性を高めることで「音声や身振りによる働きかけ」の力が定着すると考える。そこで、本単元では、「話すこと（表現・要求）」と「聞くこと（受け止め・対応）」の関連性や「物を介したやりとりの芽生え」を未習得であることを踏まえて、最初は教師が取り扱う言葉の3つを使って積極的にやりとりを進め、言葉の表す意味に気付きやすいように具体物や実際の行動を提示しながら繰り返し伝えたり、本生徒の応答を引き出したりする。その際に、どの方法が教師に注目して応答できているのかを観察して、行動を強化しながら教師と相互のやりとりを行っていく。物を介してやりとりをする楽しさを感じながら、教師からの促しがなくても発声や身振り、視線の動きなどを使って教師へ働きかけたり、VOC Aなどの機器を用いて言葉として明確に意思を表出する経験を積んだりすることを通して、目標とする力を高めることができると考える。

これらの二つの観点を学習しながら、国語科の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」「聞くこと・話すこと」の習得を目指すこととする。その際、目標として取り扱わないが、本生徒のもつ「読むこと（見ること）」の力を生かしながら学習を進めていく。

本単元では、「身近な人と話をしよう～お話の宝箱～」という単元を設定し、題材として「もっかい！」と「おやさいどうぞ」いう二つの絵本を使うこととした。前者の作品は、登場人物が何度も「もっかい！」と母親に頼んで、本を読んでもらう内容となっている。この題材では、「もっかい！」という言葉が登場すると、好

きな読み聞かせをしてもらえることが分かりやすい内容となっており、本生徒の興味関心を引き出しながら「本」「もう一回」という言葉の意味を感じ取ることができるのではないかと考える。後者の作品はいろんな野菜が調理されていく様子を仕掛けと擬音語で表しながら料理を完成させるものである。それぞれの野菜がもつ独特の触感や重さなどを擬音語で感じ取りながら、少しずつ野菜が変化していく様子がイラストを交えて分かりやすく示されているため、言葉の意味を感じ取りやすい。特に「野菜」が共通してもつハリやみずみずしさを表した擬音語に注目させながら学習することで、これまで学んできたそれぞれの作物が「野菜」という大きなカテゴリに属していると感じ取りやすいと考える。

実際の授業では、授業の初めに二つの題材を表した箱を提示し、本生徒に身振りや視線、発声などで選ばせる。「もっかい！」では、実際の本に触れたあとに、作中に何度も登場する「もっかい！」という言葉を書いて、好きな作品が繰り返し読まれる体験したりしながら「本」「もう一回」という言葉の意味を感じ取らせる。また、単元の中盤以降は、繰り返しの展開の中で、教師へ注目して要求をするように間を作りながら促し、VOCAなどを活用して自ら「もう一回」と伝えられることを目指して学習を進める。「おやさいどうぞ」では、電子黒板を使用し、強調したい擬音語を感じ取らせたり、教師がその擬音語を復唱して伝えたりすることで、擬音語とそれがあらわすものを感じ取りやすくしながら学習を進める。繰り返し耳や肌などで音や感触などを感じさせ、擬音語と具体物、言葉とが結びつくようにしながら学習に取り組んでいく。

### (3) 単元の目標

- |  |
|--|
| ①身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。<br><p style="text-align: right;">&lt;ア 言葉の特徴や使い方(ア)&gt; (知識及び技能)</p> |
| ②身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりする。<br><p style="text-align: right;">&lt;聞くこと・話すこと・イ&gt; (思考力・判断力・表現力等)</p>    |
| ③言葉を通じて積極的に人と関わったり、思い付いたり考えたりしながら、言葉で表すことやそのよさを感じようとしているとともに、言葉を使おうとする。(学びに向かう力・人間性等)                    |

### (4) 単元の指導計画

内容		指導目標	時間数 (全11時間)
I	○教師の働き掛けを受けて、読みたい物語を選択する ○読み聞かせを聞く ○内容の理解 (登場する人や物)	①③	2時間
II	○キーワードや教師の働き掛けを受けて、読みたい物語を選択する	①②③	1 / 4時間 (本時)
III	○キーワードを手掛かりに読みたい物語を選択する		5時間

※II・III共通の指導内容

## 6 本時について

### (1) 本時の目標

- ①教師の言葉が表している身近な具体物に気付く。<ア言葉の特徴や使い方(ア)> (知識及び技能)
- ②教師の働きかけに応じて、自分なりの方法で答える。  

<聞くこと・話すこと(イ)> (思考力・判断力・表現力等)
- ③言葉を介して教師と自分なりの方法でやりとりをしようとしたり、言葉を聞いて、それが表すものを考えようとしたり、自分なりの方法で表現しようとしたりする。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 本時の評価

評価の 観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	言語の特徴や使い方	聞くこと・話すこと	
評価 規準	言葉が表している身近な 具体物に気付いている。	教師の言葉掛けと具体物を手が かりに状況にあったやりとりを している。	「もう一回」の言葉を介して教師と自分 なりの方法でやりとりをしようとしたり、 「本」「野菜」の言葉を聞き、そのものを 考えようとしたり、自分なりの方法で表 現しようとしたりしている。
評価 基準	A 「本」や「野菜」の言 葉を聞き、具体物に視 線を向けたり、声を出 したりしていた。	A 教師の言葉を手がかりに視線 で題材を選んだり、「もう一 回？」の促しを聞き、肘の動 きや発声で応じたりするこ とができた。	A 教師の「もう一回？」の促しの言葉に 肘の動きや発声などさまざまな方法で 応じようとしていたり、「本」や「野 菜」の言葉が表すものに注目し続けて 学習しようとしたりしていた。
	B 教師の指さしや擬音語 などを手がかりに 「本」や「野菜」など の言葉を聞き、画面や 具体物を見たり、声を出 したりした。	B 教師の言葉と指さしを手がかり に視線で題材を選んだり、 「もう一回？」の促しを聞 き、肘の動きや発声、視線で 応じたりすることができた。	B 教師の「もう一回？」の促しの言葉 に、肘や発声、視線などで応じようと していたり、「本」「野菜」の言葉が表 すものに視線を向けて学習しようとし たりしていた。
	C 目の前に提示された具 体物の感触や擬音語な どを手がかりに「本」 や「野菜」などの言葉 を聞き、画面や具体物 を見たり、表情や動き を変えたりした。	C 目の前で題材を交互に見せる ことで題材を視線で選んだり 、「もう一回？」の促しを 聞き、教師をじっと見るこ とで応じたりすることができ た。	C 教師の「もう一回？」の促しの言葉に 視線で応じようとしたり、「本」や 「野菜」などの言葉に関心をもち、視 線や表情を変えて学習しようとしたり していた。

(3) 本時の展開

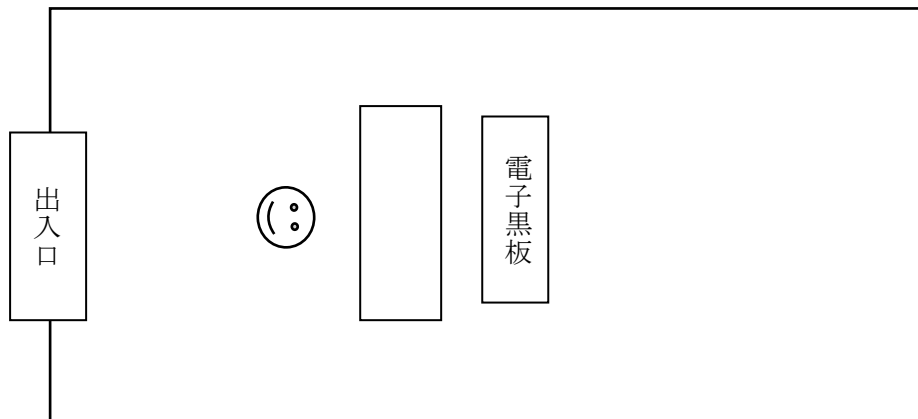
時間	学習活動	主体的・対話的で深い学びのための 教師の手立て	評価のポイントとなる 生徒の姿	備考
導入 2分	○始めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼びかけて、教師に注目が向いてから 号令を行う。(1) -①-ア</li> <li>一言ずつ間を取って、教師と視線を合 わせて上肢の動きや発声を促す。(1) -②-ク</li> </ul>		
展開 28分	○二つの物語から一つ選 ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 m程度離れたところに箱を提示し て、教師の指さしと「本」「野菜」の言 葉を手がかりに視線の動きで物語を選 ばせる。(1) -③-サ</li> <li>選ぶことが難しかった時には箱を近づ けて、中に入った物語を表す具体物を見 せたり、触らせたりして注目させる。 (1) -④-チ</li> <li>選んだ物語が入った箱を開く様子をゆ っくり見せ、期待感を高める。 (1) -③-コ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉と指さしを 手がかりに視線で題材 を選んだ。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【②思・判・表】</b></p>	



<p>○選んだ物語の読み聞かせを聞く。</p> <p>物語① ・「もっかい！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの際には、「本」や「野菜」、「もう一回」などの気づいてほしい言葉を大きくはっきり伝えて注意を向けやすくする。(1) - ② - ク</li> <li>・1～2m程度離れたところで教材を提示し、注目が難しい際には姿勢や向き、提示する距離を適宜変更する。 (1) - ① - イ</li> <li>・読み終わった後は、「もう一回？」と尋ね、表出や要求が見られた場合はもう一度最初から読み聞かせをする。 (1) - ② - ク</li> <li>・実際の本に触れさせたり、中身をパラパラめくる様子を見せたりして、「本」の特徴と言葉を強調して伝え、言葉の理解を促す。(1) - ② - ク</li> <li>・「もう一回？」の場面で目の前に手を差し出して、タッチするように促す。タッチすることができたら、「もう一回ね」と伝えて称賛し、続きを読む。 (2) - ② - カ</li> <li>・「もう一回？」の言葉に反応が見られない際は、繰り返し尋ねながらタッチを促したり、視線や表情などの変化を見て、「〇〇したからもう一回ね」と意図的な表出を促したりする。 (2) - ① - エ</li> <li>・作中に出る絵本は本生徒が好きな内容に変更し、注目して見聞きできるようにする。(1) - ③ - コ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本」「野菜」の言葉が表すものに視線を向けて学習しようとしていたりしていた。【③主】</li> <li>・「もう一回？」の促しを聞き、肘の動きや発声で応じた。 【②思・判・表】</li> <li>・「もう一回？」の促しを聞き、肘の動きや発声で応じた。 【②思・判・表】</li> <li>・教師の指さしや擬音語などを手がかりに「本」の言葉を聞き、絵本の中の本を見たり、声を出したりした。【①知・技】</li> </ul>
<p>物語② ・「おやさいどうぞ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっかい！」と区別しやすいように、電子黒板で内容を示す。(1) - ① - ウ</li> <li>・スライドの切り替わりの際に効果音を鳴らし、教師が「〇〇って音がしたね」と擬音語として復唱して伝え、野菜の特徴をつかみやすくする。 (3) - ① - ア</li> <li>・作中で登場した料理の模型を見せ、「野菜」が食事に使われていることを示し、身近なものであると感じさせる。 (3) - ③ - コ</li> <li>・読み終わった後に、作中に登場した野菜を具体物で確認し、触れたタイミングで言葉を提示して、総称して「野菜」ということを確認させる。 (3) - ① - ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指さしや擬音語などを手がかりに「野菜」の言葉を聞き、画面や具体物を見たり、声を出したりした。 【①知・技】</li> </ul>

	○もう一つの物語の読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔の近くで音を鳴らしたり、擬音語を言ったりして、どの野菜を表すものか視線や肘で選び、擬音語と野菜とを結びつけるようにする。(3) - ② - ク</li> <li>残った箱を教師が指さして、視線を誘導しながら、「こっちは〇〇だね」と気付いてほしい言葉を伝えながら注目させる。(1) - ② - ク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擬音語を手がかりに、それが表す野菜を選んだ。【①知・技】</li> </ul>	
まとめ 5分	○本時を振り返る。 ○終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>気付いてほしい言葉を具体物で確認しながら、授業中に見られた表出や要求、身体の動きや表情の変化などを身振りや言葉で称賛し、次時への意欲を高める。(3) - ③ - ソ</li> <li>呼びかけて、教師に注目が向いてから挨拶を行う。(1) - ① - ア</li> <li>一言ずつ間を取って、教師とのアイコンタクトや、頭部や口を動かすように促す。(1) - ② - ク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本」「野菜」の言葉が表すものに視線を向けて学習しようとしたりしていた。【③主】</li> </ul>	

(4) 場の設定



## (1) 主体的な学びに向かう視点

### ① 安心して取り組める

- ア 教師と子どもの信頼関係ができている
- イ 失敗や間違いが受容される(支持的・協力的な雰囲気)の学級づくり)
- ウ 集中して取り組める学習環境(湿度、温度、騒音等)が整えられている
- エ 全ての児童生徒が学び合いに参加している

### ② 学習の見通しがもてる

- オ おおまかな単元の構成や1時間の授業の流れをわかりやすく示している
- カ 学習活動の具体的な内容や取り組み方をわかりやすく伝えている
- キ 授業や学習活動の始まりと終わりがわかる
- ク 繰り返しの活動やパターン化した活動が効果的に展開されている
- ケ 本時のめあての確認がされている

### ③ 学習意欲が高まる

- コ 興味関心の高まる学習活動や教材が準備されている
- サ 好奇心や探求心が高まる題材や学習活動が組み込まれている
- シ 子どもの特性や長所が活かされる学習活動が工夫されている
- ス 友達と切磋琢磨したり、競ったりする活動場面がある
- セ 静的な活動と動的な活動が効果的に展開されている

### ④ 達成感があり、自己肯定感が高まる

- ソ 子どもの実態や発達段階に合わせた学習目標が設定されている
- タ 子どもにわかりやすい学習活動のめあてや個人目標が設定されている
- チ 自分で活動を選択したり、取り組み方を決めたりできる(自己選択・自己決定)
- ツ 学習の取組状況や達成状況が適宜評価される(形成的評価の充実)
- テ 多様な評価(他者評価、自己評価、ビデオ等による評価等)が活用されている
- ト 課題に対して児童生徒が自ら振り返っている

## (2) 対話的な学びに向かう視点

### ① 対話しやすい学習環境

- ア 教師の声の大きさや話すスピードなど聞き取りやすい
- イ 発表の仕方や友達の意見の聞き方などの学習ルールが示されている
- ウ お互いの意見を聞きやすい机の配置がされている
- エ 意見を表明できる手段が整えられている

### ② 対話を取り入れた授業展開

- オ 教師の一方通行的な関わりではなく、子どもとの双方向的な関わりがある
- カ 子どもの発言や意見を引き出す発問が工夫されている
- キ 友達同士の話し合いや教え合いの活動場面がある
- ク 小集団や一対一学習における対話的活動が工夫されている  
(仮想クラスメートの設定や遠隔授業の活用など)
- ケ 児童生徒の思考が可視化されている
- コ 学びや経験を活かして考えている

- サ 友達や教師を見て、モデルとする
- シ 他者と自分の考えを比較、関係づけ、統合する授業の流れが仕組まれている
- ス 素材や機器との対話がある。ものの素材感を感じている
- セ 児童生徒の学習状況を捉えた上で、新たな視点や学び合いの方向を示す言葉かけ等がある(存在の良さ・判断の良さ・効力の良さ・発想や考え方の良さが認められる)

### ③対話を通じた共感的理解や多面的理解

- ソ 反対意見や間違った意見から学ぼうとする場面がある
- タ 相手の意見や考えの良さに気づく場面がある
- チ 相手の意見や考えを自分の意見や考えと比較して捉える場面がある
- ツ 相手の意見や考えを自分の意見や考えの中に取り入れる場面がある
- テ 生徒自身が自分の考えに対する危うさを感じる場面がある
- ト 本音やまとまらない思いを出し合う場面がある

### ④多様なコミュニケーションの工夫

- ナ 言語表出や言語理解が困難な場合にICT機器等が活用されている
- ニ 言葉だけでなく表情や動作を用いた豊かな表現が工夫されている
- ヌ 場面に応じた言葉の使い方や声の大きさが示されている

## (3)深い学びに向かう視点

### ①豊かな体験的活動がある

- ア 五感(見る、聞く、話す、触れる、味わうなど)や第六感(経験的な推量や判断など)を使った活動が工夫されている
- イ 観察や実験、模擬的体験や作業などの活動が組み込まれている
- ウ 校外学習や学校行事等と関連させた学習活動が工夫されている

### ②自分で考え、工夫する

- エ 授業の中で気づきや発見がある
- オ 自分で調べて、考えをまとめる活動がある(インターネット等の活用)
- カ 考えを深めたり、困ったりした時のサポートツールが準備されている
- キ 課題に沿って試行錯誤しながら解決していく活動の流れが仕組まれている
- ク 自分やみんなの考えを確かにしていく過程が仕組まれている

### ③学んだことを生活や社会に生かす

- ケ 他者の意見や情報を取り入れて自分の行動や考えを見直す場面がある
- コ 学んだことと生活場面を関連づけて考える場面がある
- サ 学んだことを実際の生活の中で生かす方法を考える場面がある
- シ 学んだことを社会に生かす方法(社会貢献)を考える場面がある
- ス 児童生徒自身の理解や思考・判断などの過程を捉え直す場面がある
- セ 理解の状況や結果、取組の姿勢・態度などを自分で診断・評価する場面がある
- ソ 満足感や成就感を味わい直して喜んだり自省したりする場面がある
- タ 自分の学びを捉え直し、見つめ直して、以後の学びにつなげる場面がある